

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一研究室
URL:<http://www.sssp-online.org/> TEL: 03-5978-5246 E-mail: hiraoka.koichi@ocha.ac.jp
- ◇ 編集・発行 平岡公一(代表幹事) 首藤若菜(Newsletter 担当幹事) 森周子(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 第 130 回(2015 年度春季)大会のお知らせ
2. 第 130 回(2015 年度春季)大会実行委員会の挨拶
3. 国際交流委員会からのお知らせ
4. 第 131 回(2015 年秋季)大会のお知らせ
5. 社会政策関連協議会シンポジウムのお知らせ
6. 広報委員会からのお知らせ
7. 第 129 回(2014 年度秋季)大会の報告
8. 第 129 回(2014 年度秋季)大会の会計報告
9. 2014-2016 年期幹事会報告
10. 承認された新入会員

1. 第 130 回(2015 年度春季)大会のお知らせ

社会政策学会第 130 回大会は、2015 年 6 月 27 日(土)(お茶の水女子大学)と 6 月 28 日(日)(専修大学神田キャンパス)で開催されます。

このうち、第 1 日は、テーマ別分科会および自由論題のセッションを行います。報告の申込みは、2015 年 1 月 19 日に締め切りました。テーマ別分科会には 9 つの企画、自由論題には 25 報告の申込みがありました。すでに申込者の方には採択結果を通知しておりますのでご確認ください。

なお、今大会では、新しい試みとして、国際交流委員会と

共同で英語による分科会を企画しております。日本からの英語による報告(自由論題)に、海外からの報告者が合流する形で分科会が構成されます。

第 2 日の共通論題は、「社会保障改革と地方自治体: 2015 年問題の現状」をテーマに行います。

近年の社会保障改革によって、地域包括ケアや生活困窮者自立支援法の実施など地方自治体に求められる業務が拡大している一方で、少子高齢化の進行とともに、財政状況の悪化、「自治体の消滅」可能性が指摘されるなど、地域社会を取り巻く状況は厳しさを増しています。今回の共通論題では、新しい制度・政策の実施元年となる 2015 年の地方自治体、高齢者・地域包括ケア、生活困窮者支援の現状などを中心に今後の課題を検証することしたいと思います。沼尾波子氏(日本大学・非会員)、井上信宏氏(信州大学)、垣田祐介氏(大分大学)、滝脇憲氏(NPO 法人自立支援センターふるさとの会)の 4 氏にご報告いただきます。

【報告者の方へお願い】

今大会より、フルペーパーの電子化を徹底します。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、期日までにフルペーパーを提出されるようお願いいたします。レジメなど当日配布資料等は開催校ではお預かりしませんので、宅急便等により開催校に送付されないようお願いいたします。

(春季大会企画委員会 所道彦)

2. 第 130 回(2015 年度春季)大会実行委員会の挨拶

社会政策学会第 130 回春季大会開催にあたって

社会政策学会第 130 回春季大会は 6 月 27 日(土)、28 日(日)に開催されます。27 日(土)の 1 日目はテーマ別分科会と自由論題報告をお茶の水女子大学で、28 日(日)の 2 日目は共通論題を専修大学神田キャンパスで開催いたします。お茶の水女子大学のキャンパスが手狭なため、専修大学のご協力を得て共同開催ということになりました。1 日目、2 日目と会場が変わり、会員の皆様にはご迷惑をおかけすることになりますが、どうぞよろしくお願いたします。

お茶の水女子大学は、今年、創立 140 周年を迎えます。社会政策学会大会の開催は初めてです。女性の活躍に期待がかかる昨今ですが、140 周年という記念の年に社会政策学会という歴史ある学会大会をお引き受けすることには大きな意義があると考えました。一方、専修大学での大会開催は、戦前の 2 回を含め、今回で 6 回目となります。

実行委員会一同、参加者の皆様にとって快適な大会環境を作れるように努力したいと思います。できるだけ多くの会員が集い、熱心な議論が展開されることを心より期待して、会場でお待ちしております。

(第 130 回大会実行委員長 斎藤悦子、副委員長 兵藤淳史)

3. 国際交流委員会からのお知らせ

2015 年春季大会での自由論題(英語分科会)について

社会政策学会は、ヨーロッパ社会政策分析ネットワーク(the European Network for Social Policy Analysis)通称 ESPAnet との交流を 2013 年から開始した。

2013 年春季大会にバルセロナ自治大学の M・レオン氏を共通論題に招聘し、同年 9 月の ESPAnet 大会で代表幹事と国際交流委員会委員長がエスパネット側代表と話し合い、相互の学術交流の継続を約束した。また、2014 年 7 月に横浜で開催された国際社会学会 (ISA) 大会の期間中にも両学会で話し合いをもち、第 130 回大会(2015 年春季大会)で自由論題(英語分科会)を設け、ESPAnet 会員にも参加を呼びかけることが確認された(これについては第 2 回幹事会で承認された)。

2014 年 10 月に社会政策学会から ESPAnet 会員宛に“Call for Papers”が出された。また第 130 回大会の報告募集では、本学会会員に対しても国際交流のために「英語で行う分科会を構成する予定」であるとして、英語での報告を募集した。

2015 年 1 月 19 日の応募締切までに、本学会会員 3 人(3 件)、ESPAnet 会員 14 人(15 件)の応募があった。ESPAnet 会員からの応募数は、われわれの予想を超えたものであった。

応募者のテーマは、社会福祉、比較社会政策、福祉国家論、労働市場分析など多岐におよんだ。海外からの応募者については、学会での受け入れ体制や大会プログラムの影響を考えるとすべてを受け入れることはできないため、選考を行った。その結果 4 人の報告者を選び、第 3 回幹事会の承認を経て報告者に通知した。

自由論題(英語分科会)は、6 月 27 日に 2 セッションに分かれて行われる。第 1 セッションのテーマは“Sustainability of welfare states”(福祉国家の持続性)で、3 人が報告する(うち本学会会員 1 人)。第 2 セッションのテーマは“Re-discovering social protection and security beyond crisis”(危機後の社会的保護・社会保障の再発見)で、4 人(うち本学会会員 2 人)が報告する。第 2 セッションは前半と後半に分かれ、午後の 2 セッション分を使う。それぞれの報告に対しては、本学会会員の討論者がコメントをする。

英語分科会は、報告者や討論者だけでなく、本学会会員に広く国際交流の場を提供することを目的としている。多くの会員が分科会に参加されることを望む。

(国際交流委員会副委員長 鈴木玲)

4. 第 131 回(2015 年秋季)大会のお知らせ

第 131 回(2015 年度秋季)大会は西南学院大学にて 10 月 31 日(土)、11 月 1 日(日)の 2 日間の日程で開催します。

1 日目に共通論題、2 日目に書評分科会、自由論題、テーマ別分科会報告を行います。

共通論題のテーマは「外国人労働者問題」を中心に企画を

進めているところです。詳細につきましては、学会ホームページにて 4 月中旬にお知らせする予定です。なお自由論題、テーマ別分科会の報告募集は同じく学会ホームページにて 5 月中旬から下旬にお知らせする予定です。

5. 社会政策関連協議会シンポジウムのお知らせ

シンポジウム「地域の魅力を考える — 仕事と暮らしを支える社会政策とは—」

いま地域社会の「再生」をめぐる議論がさかんになっています。社会政策関連学会協議会では、人々の暮らしの基礎となる地域の「再生」のために地域づくりをいかに進めるか、地域での暮らしを支えるためにどのような社会政策が求められるのか、多面的に議論するシンポジウムを開催することにしました。

シンポジウムは福井市での開催になりますが、社会政策学会の多くの会員が参加されますようご案内申し上げます。

日 時 :2015 年 5 月 16 日(土)午後 1 時 30 分~5 時

会 場 :アオッサ福井(福井駅から徒歩 1 分)

総合司会 :大沢真理(日本学術会議連携会員、東京大学)

座 長 :阿部誠(社会政策関連学会協議会代表、大分大学)

報告者 :

① 前田洋一(福井県庁総合政策部企画幹)

「地方における地域産業育成の現状と課題」

② 井上信宏(社会政策学会、信州大学)

「人口減少時代の UI ターンと地域への定着促進政策」

③ 石井まこと(日本労働社会学会、大分大学)

「地方若年者が抱える就業・家族形成の困難さへの対応 —地方に残る若者たちの受け皿と生活展望の視点から—」

④ 斎藤弥生(日本地域福祉学会、大阪大学)

「地方都市および過疎地域における地域包括ケアの仕組みづくり—北欧モデルとの対比」

コメンテーター:吉村臨兵(福井県立大学、社会政策学会)

羽田野慶子(福井大学)

主 催 :社会政策関連学会協議会、日本学術会議、福井県

後 援 :福井県民生活協同組合、福井新聞社

6. 広報委員会からのお知らせ

社会政策学会の Web サイトに部会の情報を掲載するページを作成しました。ホームにある「全国大会と部会・研究会」の下層にある「地方部会」「専門部会」ページです。

「地方部会」

http://jasps.org/conference_meeting01.html

「専門部会」

http://jasps.org/conference_meeting02.html

研究会情報ブログ (http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/) と合わせてご利用ください。

(広報委員会委員長 藤原千沙)

7. 第 129 回(2014 年度秋季)大会の報告

社会政策学会第 129 回(2014 年度秋季)大会は、10 月 11 日(土)、12 日(日)の両日、岡山大学津島キャンパス(岡山市北区津島中)で開催された。両日とも天候にも恵まれ、ゲストスピーカー1名、名誉会員4名を含む299名の参加を得て、大会を無事実施することができた。開催校事務局として運営面について振り返り開催校報告としたい。

1. 開催校引き受けの経緯

岡山大学での社会政策学会秋季大会の開催という提案は早く 2012 年に、関西部会の玉井金五会員と久本憲夫会員から私に寄せられた。本学経済学部における社会政策学会会員は、過去には菊池光造名誉会員や野村正實会員等複数の会員が在籍していた時期もあったが、残念ながら現在の会員は私一人という寂しい状況であり、正直言って大会を引き受けるのは無理であった。ただ、岡山大学における全国大会は 1973 年秋季大会以来開催されておらず、また私の定年退職後には会員がいなくなるという事情を考え、関西部会がサポートを約束してくれたことから開催校を引き受けた。

2. 大会準備について

大会準備・運営については 2012 年 12 月 1 日の大阪経済大学における関西部会時に久本会員から京都大学大会時の経験をもとに説明してもらったとともに、大会運営事務については京都大学大会時に依頼した AC プランニングを紹介してもらった。そして、2013 年秋季(大阪経済大学)大会時に、大会運営状況を学ばせてもらうとともに、AC プランニングと岡山大会の開催について運営事務の打合せを行った。以後、大会引き継ぎ、会計処理、弁当手配、出版社への対応、掲示物印刷、名札・領収書準備等の事務処理は AC プランニングが担当した。

主催校側実行委員長として本格的に準備を開始したのは、2014 年 4 月 6 日の幹事会において春季大会の準備状況を説明してもらってからであった。具体的には、4 月中に講義棟の全教室を仮予約し、また懇親会会場を確保し、前期中に学生アルバイトの手配、情報処理関係のサポートについての非会員教員への協力依頼を行った。藤原千沙会員から 7 月に送られてきた社会政策学会・歴代会記録は大会や懇親会のおおよその規模を把握するうえで役立った。そして大会プログラムが確定した 8 月下旬以降に使用教室の確定と岡山大学への教室使用料の支払い、大学紹介・観光案内パンフレットとプラスチックサックの手配と業者への送付、立て看板、懇親会企画等を行った。

なお、本学経済学部と法学部が夜間教育を行っている関係から、大会前日に分科会会場の準備を行うことができず、そのために居神浩・大会企画委員長と相談の上、変則的ではあるが初日 11 日(土)には共通論題のみを実施し、この間に分科会会場の整備と準備を行うことにした。

3. 大会運営

参加者数は事前申込み者が会員 182 名、非会員 4 名、ゲストスピーカー・名誉会員・学生を含む当日申込み者が 113 名の計 299 名であった。また懇親会参加者は事前申込み 105 名、当日申込み 29 名の計 134 名であった。

11 日の共通論題の開催の後、12 日(日)には 20 分科会(午前 6、午後①7、午後②7)が実施された。

分科会会場は講義棟 1 階北側 2 教室と 2 階北側 2 教室・南側 3 教室と、コンパクトな会場設置であり、共通論題会場も含め、きれいに使って頂いたことから事後の清掃が楽であった。参加会員に感謝したい。

大会運営面では、関西部会から大阪経済大学の森詩恵会員、伊藤太一会員と院生一名がサポートに来てくれ、両会員がアルバイト学生に的確な指導・指示を行ってくれた。両会員のおかげで無事大会を運営することができた。

なお、第 128 回 2014 年春季大会以降、主催校は配付用の報告資料やフルペーパーの印刷をする必要は無く、報告用パワーポイント資料を事前に送ってもらい、会場に設置したパソコンにインストールするだけであったことから、主催校側の負担が大幅に軽減されている。ただ、報告用ペーパーを報告者が印刷して持参することになっているが、やはり余りが大量に出て、最終的にはゴミとして処理せざるを得なかった。報告資料は大会ホームページからダウンロードできることから、他学会のように報告者が資料を配布する必要を無くしても良いのではないかと思った。

4. 懇親会について

懇親会の参加者は 134 名と予想よりも多く、盛況であったと思う。懇親会は津島キャンパスの南福利施設(ピーチユニオン)3 階の生協食堂において、岡山駅行き最終バスの時間が午後 8 時 5 分ということで午後 6~8 時の 2 時間で行った。

料理の方は季節柄平凡な料理で、かろうじてご当地 B 級グルメの「えびめし」と「(津山)ホルモンうどん」を出せた程度で、満足いただけたかどうか不安であった。ただ、飲み物については

地ビール「独歩」と岡大農学部の米を原料とした「おお岡大」純米吟醸は、用意した分が早々になくなり追加注文したように好評であった。なお、懇親会も進行を伊藤太一会員が引き受けてくれたおかげで、盛会であった。

で運営することができた。なお、費用面では教室使用料の負担があったが、岡山大学が共通論題資料等用のプラスチックサックを提供してくれたことから、エコバックなどを用意する費用を節約できた。これはたまたまオープンキャンパスが台風の影響で中止になり、大学の用意した配付用プラスチックサックが大量に余っていたことから回してくれたものであるが、本学の事務方に感謝している。

5. 費用について

全体として、大会運営がコンパクトであったことから大会開催費(150万円)と広告出展料および懇親会参加費で余裕を持つ

(文責 清水耕一)

8. 第129回(2014年度秋季)大会の会計報告

本会計

収入		支出	
大会開催費(学会本部)	1,500,000	プログラム、払込用紙、封筒印刷代	367,520
広告収入	92,000	プログラム等発送料・郵送料	194,902
弁当代	96,800	アルバイト人件費・交通費・宿泊費	364,770
懇親会参加費	699,000	アルバイト弁当代	40,107
		会場使用料/看板	168,152
		懇親会経費	629,305
		弁当代	96,800
		名札ケース、コピー代、振込手数料	77,244
		準備および事後処理費	370,000
		収支差	79,000
合計	2,387,800	合計	2,387,800

参加人数詳細

大会参加		懇親会参加	
事前振込(会員)	182	事前申込	105
事前振込(非会員)	4	当日参加	29
当日参加(会員)	62		
当日参加(非会員)	45		
ゲストスピーカー	1		
招待者・学部生	5		
合計	299	合計	134

*上記会員には名誉会員4名を含む

学会への振込金額

大会参加費：事前振込	437,000
大会参加費：当日申込	304,000
合計	741,000

9. 2014-2016 年 期幹事会報告

第5回幹事会 議事録

日時:2015年2月22日(日)13:00~17:30

場所:立教大学池袋キャンパス12号館第1・2会議室

出席:阿部(彩)、阿部(誠)、居神、禹、遠藤、垣田、熊沢、首藤、沈、鈴木、所、平岡、平木、藤原、森、山田(篤)
欠席:岩田、埋橋、大沢、武川、田中、松本、宮本、山田(和)、横田

1. 春季大会企画委員会

所委員長より、2015年春季大会の応募状況、共通論題の準備状況、テーマ別分科会と自由論題の一覧について報告された。若手研究者のためのセッション等は、2015年春季大会では見送り、引き続き検討することとした。また、報告要領の文面について検討された。

2. 春季大会実行委員会

平岡代表幹事より、2015年春季大会の実行委員会の組織、業務委託、会場準備の状況等について報告があった。書籍販売の実施と総会の開催日について意見交換がなされた。

3. 秋季大会企画委員会

居神委員長より、2015年秋季大会の共通論題の案についての報告があった。4月中旬～下旬に共通論題のテーマを発表し、5月に自由論題とテーマ別分科会の報告者を募集するとされた。

4. 秋季大会実行委員会

平木委員長より、2015年秋季大会が西南学院大学にて2015年10月31日(共通論題)・11月1日(テーマ別分科会・自由論題)に開催されることが報告された。

5. 学会誌編集委員会

阿部彩委員長と山田副委員長より、学会誌刊行の進捗状況、研究レビューの掲載予定、視覚障害のある会員へのテキストデータの提供、転載許可の申請方法について報告された。また、実務者への原稿依頼のあり方、査読専門委員制度のあり方、投稿本数の低迷傾向、採択率の低さに関する意見交換がなされた。査読専門委員の任期が二年であり、必要に応じて交代することがあり得ることが確認された。

6. 広報委員会

藤原委員長より、学会ホームページにおいて部会の情報を掲載するコーナーを新規に作成することが報告された。

7. 国際交流委員会

鈴木副委員長より、2015年度春季大会英語セッションのプログラム案、LERA大会にて報告する会員2名に対するregistration feeの助成、エスパネット報告者参加費助成制度の改定についての報告があり、了承された。

次に、沈委員長より、2015年5月の韓国社会政策学会での報告者について、応募者がいなかったことが報告され、適任

者に依頼することが了承された。また、2015年の秋季大会での日韓分科会の組織を雇用・社会保障の連携部会に打診することが了承された。また、韓国社会政策学会との国際交流協定を更新する方針が了承され、また改正案が承認された。海外との連絡に利用するためのレターヘッドの原案も提示された。

8. 学会賞選考委員会

首藤委員より、学会賞選考委員会の議論の進捗状況についての報告があった。代表幹事からリスト作成の負担を軽減するためのアプリケーション開発とその経費についての説明があり、了承された。また、学会賞の位置づけに関する問題提起もなされ、意見交換を行った。

9. 日本経済学会連合

遠藤担当幹事より、2015年度から、日本経済学会連合のホームページにおいて過去の文献などが閲覧できるようになることが報告された。

10. 社会政策関連学会協議会

阿部誠担当幹事より、2015年5月に福井で開催される社会政策関連学会協議会シンポジウムについて報告された。

11. 部会活動補助と活動報告について

平岡代表幹事より、非定型労働部会が実施を予定している大学院生・常勤職に就いていない会員の遠隔地報告への経費一部補助についての案が紹介され、その実施が了承された。

12. 旅費規程の改正について

平岡代表幹事より、旅費の全額支給に向けた学会旅費規程の改定案が提出され、これを了承し、来年度の春季大会の総会に提案することとなった。

13. 学会の会計方式の見直しと2015年度予算編成について

平岡代表幹事より、学会の会計方式の見直し(積立金制度の導入)に関する提案がなされ、積立制度の目的等について、意見交換を行った。制度の具体案と2015年度予算編成の検討に向けて、幹事会メンバー数名によるワーキンググループが設置されることとなった。

14. 入会申込者と退会希望者について

9名の入会希望者について審議を行い、入会を了承した。また、3名の退会希望者の退会を了承した。

10. 承認された新入会員

氏名	所属先名称	専門分野
2015年2月22日承認分		
赤澤 清孝	大谷大学文学部社会学科	生活・家族
今井 知春	武庫川女子大学文学部教育学科	教育学
川崎 暁子	法政大学大原社会問題研究所	労使関係・労働経済
阪本 俊生	南山大学経済学部	生活・家族
史 邁	同志社大学大学院社会学研究科	社会保障・社会福祉
竹森 香以	東京大学大学院教育学研究科	その他
藤間 公太	慶應義塾大学大学院社会学研究科	生活・家族
三家本 里実	一橋大学大学院社会学研究科	労使関係・労働経済
山田 理絵子	大阪府立大学大学院人間社会学研究科	社会保障・社会福祉

お知らせ 「社会政策学会研究会情報」の更新情報をお手持ちのパソコンのブラウザに配信しています

学会では会員の皆様に、学会に関連する研究会の開催情報を「社会政策学会研究会情報」(http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/)より発信しています。

お手持ちのブラウザのRSS機能を活用しますと、「社会政策学会研究会情報」が更新されたさい、更新情報がブラウザに自動的に配信され、2010年6月まで行っていた研究会情報のメール配信と同等の利便性を維持できます。

学会ではInternet Explorer、Safari、FirefoxでのRSS登録方法をPDFにて説明しています。ぜひご活用ください(http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/rss_guidance.pdf)。

